

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会
第16号 2007年1月

『ほたるの里の10年』

八千代市ほたるの里づくり実行委員会
会長 加藤 賢三

明けましておめでとうございます。今年は、ほたるの里づくりが始まって10年という記念の年になりました。ほたるの里の設立時の初心を思い出し、今後の里づくりの方向を確かなものにして行きたいと思えます。

現在のほたるの里は、もともとは水田耕作のされていた場所で、地下水がいまでも湧いて「乳子清水」とすぐそばの「元八海」にはさまれ、斜面林もあり、良好な水辺の条件は備えています。以前にはたくさ

んのホタルが飛び交っていた、かつての田園風景を取り戻し次の世代に伝えようと、市が米本にある約3000㎡のこの水田跡にほたるの里を整備しました。平成9年から、市民参加の里整備が始まり、平成10年にほたるの里づくり実行委員



会が設立されました。市民と行政と企業の三者の協力によるグラウンドワーク方式での里づくりの始まりです。ホタルの気持ちになって、ホタルがここに棲んでみたくなるような、里づくりが基本となっています。一般に、ホタルの棲んでいる場所は、ホタルばかりではなく、多様な生き物が棲める場所でもあります。現実には、ここには絶滅危惧種もいますので、生き物の気持ちになって保全管理していくことが必要になります。

この「里だより」でも既に何度も紹介されたように、ここは市民のいこいの場でもあり、環境学

習にとっても、今では貴重な場になっています。

昨年も、恒例のナイトウォッチングを開催しましたところ、400人ほどの参加者がありました。しかし、見られたホタルはせいぜい3匹~10匹くらいでした。なぜ、ホタルの生育が悪いのかというと、天敵のザリガニやウシガエルがたくさんいるのが原因と考えられています。数年前から、ザリガニつり大会を開催していますが、それだけでは、不十分なようです。そこで、今年はもう少しザリガニつりを徹底することと、ホタルの里親制度を試してみたいと考えています。詳細は、事務局までお問い合わせください。今後は、ほたるの里で皆さんが育てたホ

タルがたくさん見られることを期待しています。

また、今年が目玉としてタイムカプセル開きがあります。10年前にほたるの里づくりの作業に参加された、子どもエコクラブ、ガールスカウト、ホタルメイトの方々が、それぞれの思いを込めて埋

めておいた、タイムカプセル開きのイベントを7月~8月ごろに予定しています。その当時、子どもエコクラブの皆さんが里に植えられた、どんぐりの実から育てた木々が今では2m近くまで成長して、この里の歴史を語っているようです。

今年も、より多くの方々にもっともっと親しまれるようなほたるの里にしていくために、皆様のご参加とご理解を頂ければ幸いです。そして、このほたるの里が水辺と緑の生き物のつながりの要の一つになることを期待しています。

谷津ものがたり

千葉県立中央博物館 原 正利

新川沿いの谷津を歩く

八千代市に住んでいる縁もあり、ほとたるの里の植物学習会（10月21日）の講師を引き受けて、新川沿いの谷津を村上橋近くの正覚院から宮内の七百余所神社まで歩いた。このあたりは戦後、印旛沼と花見川をつなぐ水路としての新川が作られるまでは、印旛沼に続く広い谷津が広がっていた場所である。現在では、新川沿いの低地の部分は整備され、周辺の開発も進んで往時の面影は薄い。谷津の縁の斜面や宮内の集落内の細道に沿って歩いて行くと、随所に昔ながらの景観の断片が残され、様々な野草や樹木も観察することが出来て、八千代市の自然と歴史を伝える貴重な地域である。

大正中頃の地図と現在の地図を比較すると、この地域の土地利用と景観の変化の大きさがよくわかる（図を参照）。最も大きな変化が見られたのは台地上である。大正中頃には、台地上は一面のアカマツ林で、一部に桑畑があったようである。当然、村上団地やゆりのき台の住宅地、工業団地は出来ておらず、集落は谷津を囲むように台地の縁や斜面の下部に点在していただけである。現在、村上団地となっている場所には細長い谷津が奥まで入り込んでいたことや、新川の流れるはまだ細く、流れの際まで水田が広がっていた様子もよくわかる。地域内で最も変化が小さく往時に近い景観が残されているのが、谷津の東側の台地の縁の部分である。現在、村上橋からこのあたりを眺めると台地の縁の斜面に沿ってスダジイやアカガシ、シラカシなど常緑広葉樹の多い森が細長く帯状につながっているのが良く見える。これらの森は、八千代市が常緑広葉樹林帯に位置することを示すという意味で植物生態学的に貴重なばかりでなく、地域の自然景観を伝えるという意味でも大事にしていきたいものである。

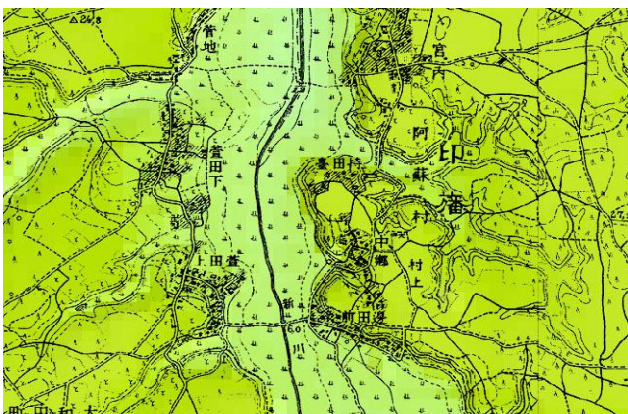
さて、秋の植物観察会では、通常は木の実や草の実を観察するのが中心である。しかし、今年は特に木の実が不作で、あまり多くの種類を観察することが出来なかった。それでもムクノキやエノキ、アカガシ、シラカシ、ムクロジなどは実を付けていて観察が出来た。ムクノキとエノキはどちらもニレ科に属する高木で、種子の周りに甘い果肉を付けて鳥によって広範囲に散布される。また、どちらも芽生えてからの成長が早く、10年ほどで直径10cm以上になる。このため、様々な場所で芽生えを見ることが出来るし、明るい環境であればすぐに大きく成長することが出来る。もともと、谷津の縁のような、明るくやや湿った環境条件を好む樹木で、今回の観察ルート沿いでも最も普通な種であった。

また、七百余所神社に行く手前の宮内の集落では、1軒の農家の低い石塀上の草つきの土手の上に、茎は刈られて草丈が低くなってはいたが、ワレモコウが生育しているのを確認することができた。ワレモコウは萱場（かやば）と呼ばれていたススキ草原に普通に見られた野草であるが、萱場がほとんど無くなってしまった現在の千葉県では、比較的、珍しい種である。ごく狭い面積ではあるが、毎年の刈り込みによって草原の状態が維持されてきたために、ワレモコウも今まで生き残ってきたのだと思われる。

宮内の集落のあたりは、お盆過ぎになると梨の直売所が立ち並ぶので訪れたことのある人も多いであろう。そのような折に少し時間をとって、周辺を歩いてみてはどうだろうか。普段は目にしない植物や、どこか懐かしい景色に出会えるかもしれない。

---図の説明---

図。新川沿いの谷津の大正中頃（左）および現在（右）の地図。地図は国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を「今昔マップ」（谷謙二2005）を用いて表示させたものから作成した。



里のみどころ（1月～3月のころ）

あたり一面まっしろな世界がひろがります。
足元では、サクッ！サクッ！と霜柱を踏む音がしてきます。
チガヤもハッパも、枝も白く、湿地には薄氷が張っています。
土の中、水の中でいきものたちは、ジッとして、暖かい春の足音を待っているのでしょう。
やがて、春の兆しを感じるころ、ニホンアカガエルが産卵にきます。
そして、寒い冬から暖かな春へと季節は移っていきます。

（くわはた）

ホタルメイトからのお便り

ほたるの里 ～カワセミに寄せる思いと共に～

木村幸子（八千代市在住）

時々ほたるの里で、青く光る美しいカワセミの写真を撮らせていただいています。トンボ池には、毎日何処かの時間で、新川の土手で生まれたカワセミが、小さな魚やザリガニ、オタマジャクシを食べにやって来るのです。だから、静かに気長にトンボ池で待っていたら、カワセミに逢えるのです。もしかして、その日は来なくても、トンボ池に大好きなちそうご馳走があるのを、カワセミはちゃんと知っているから、きっと逢えるのです。驚かさなないように、私達が動かないで、おしゃべりをする事なくじっと待ってさえいれば、カワセミは、さっと池に飛び込んで、クチバシで魚を上手にと獲って食事をする所を、誰でも見る事ができます。

そして、大切な奥さんにサカナをプレゼントする様子とか、子供のカワセミにご馳走をあげる、とっても素晴らしい愛情のこもった姿を見ることが出来るでしょう。それはそれは、優しい素晴らしい方法なのです。あんな小さな鳥が、私達に大好きな人に接する方法を、時として教えてくれます。

トンボ池は、ホタルの住む池なのですが、ホタルの大好きな美味しいご馳走も住んでいます。自然は、弱いものが負けて強いものが勝つという世界だけでは決してありません。小さなものは、もしかしたら食べられてしまうかもしれないけれど、その命は自分より大きな命に託され生まれ変わります。あの池に住んでいる草も葉っぱも虫もみんな死んだりしないで、違う生き物の命に繋がっていくのです。

枯れた葉っぱは、小さく細くなって土になったり、栄養にもなります。鳥達が食べた種が



ふん糞と共に排泄されて、その土の上で種が芽を出し、やがて可愛い花を咲かせるでしょう。

その小さな花は、誰も見ていなくても、そっと黙って咲いています。私達は、池に行った時その花に気がついて、きっと可愛く愛しく思うでしょう。あれほど小さな花にさえ、悲しいときは心がなぐさ慰められる事もあります。だから、どんなにつまらないと見える生き物へも、愛しいと思う気持ちが大切です。小さな自然を愛しいと思う心のある、そんな優しい人達が、カワセミやホタルを育てています。心のそこから、自然を愛している優しい人達が、まも護ってくれる事で、池は生き物が住んで行けます。

池の周りには、田んぼがあり、小さな森があり、たくさんのいろんな渡りの鳥達も来ます。ゆっくり待っていると、ちゃんと季節、季節の鳥に逢えるし、毎年必ず同じ鳥が来る所なのです。鳥達は自分達が行く所を、ちゃんと知っています。

私達が大事にして護って行きたいホタルの池は、そういう所なのです。だから心を静かにして、大好きな人を訪ねて行くみたいに、優しい気持ちでそっとほたるの里を訪ねて欲しいのです。

1・2・3月のスケジュール

✂ 里の環境整備 ✂

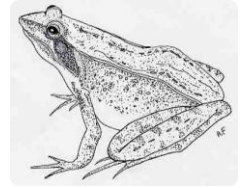
ほたるの里では定期的に里内の草刈りやザリガニ釣り大会を実施しています。次回3月は、ほたるの里周辺のゴミ拾いを予定しています。併せて、季節の鳥の観察もします。ぜひ、ご参加下さい。

日時：3月3日（土）

午前10時から12時ごろ

集合場所：ほたるの里

注意：各自で軍手・飲み物等のご用意をお願いします。双眼鏡をお持ちの方はご持参下さい。



10回総会のお知らせ

ほたるの里づくり実行委員会の総会を以下のように行います。

今回の総会は第10回の節目ということもありますので、皆様のご参加をお願いいたします。

日時：4月14日（土）10:00
～12:00

場所：八千代市郷土博物館研修室（予定）



交通 東洋バス「勝田台駅発米本団地行」に乗り、米本団地入口で下車します。新八千代病院わきを下ると、ほたるの里です。

ホタルメイトになりませんか？

年会費	個人	500円
	市民団体	2,000円
	事業所	2,000円

ホタルメイトで会費未納の方は、イベントやほたるの里整備のたびに受け付けておりますので、ご利用ください。

- ① 池や小川の中に入らないこと
- ② 草や虫をいじめないこと
- ③ ゴミをすてないこと
- ④ コイ、ブラックバスなどをいれないこと



【ほたるの里の連絡先】

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyout2@city.yachiyo.chiba.jp

【編集】

広報部会 事務局